


【近親相姦体験】

母さんにマッサージをしたら
濡れてきたので挿入してみた

その年の夏――
俺は一年ぶりに実家へと帰省した。
まさかあんなことになるとは
その時は思いもしなかった。



ひさしいー
ちよつとゴツチ来て
肩揉んでくれない？

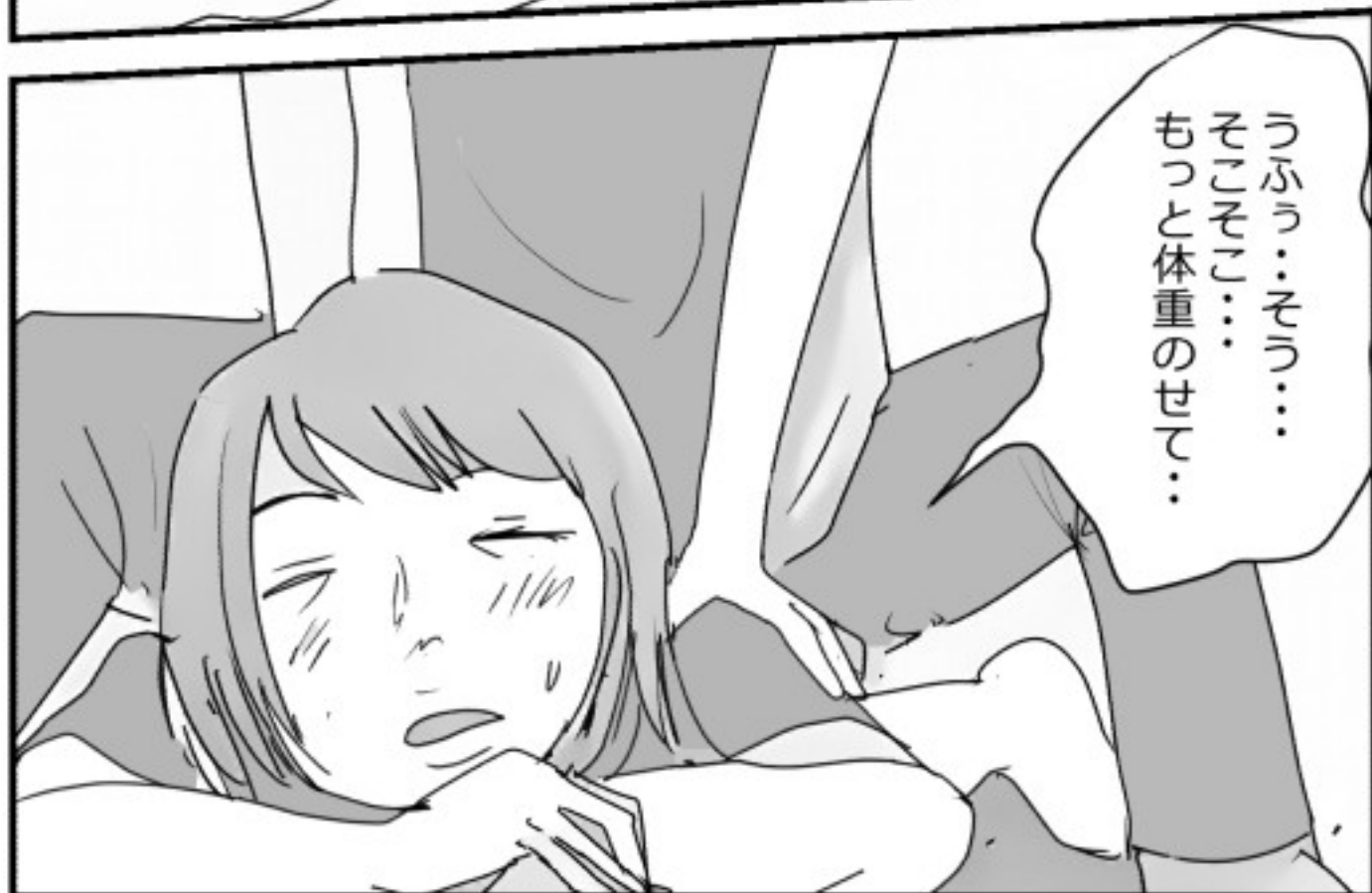
ええー？



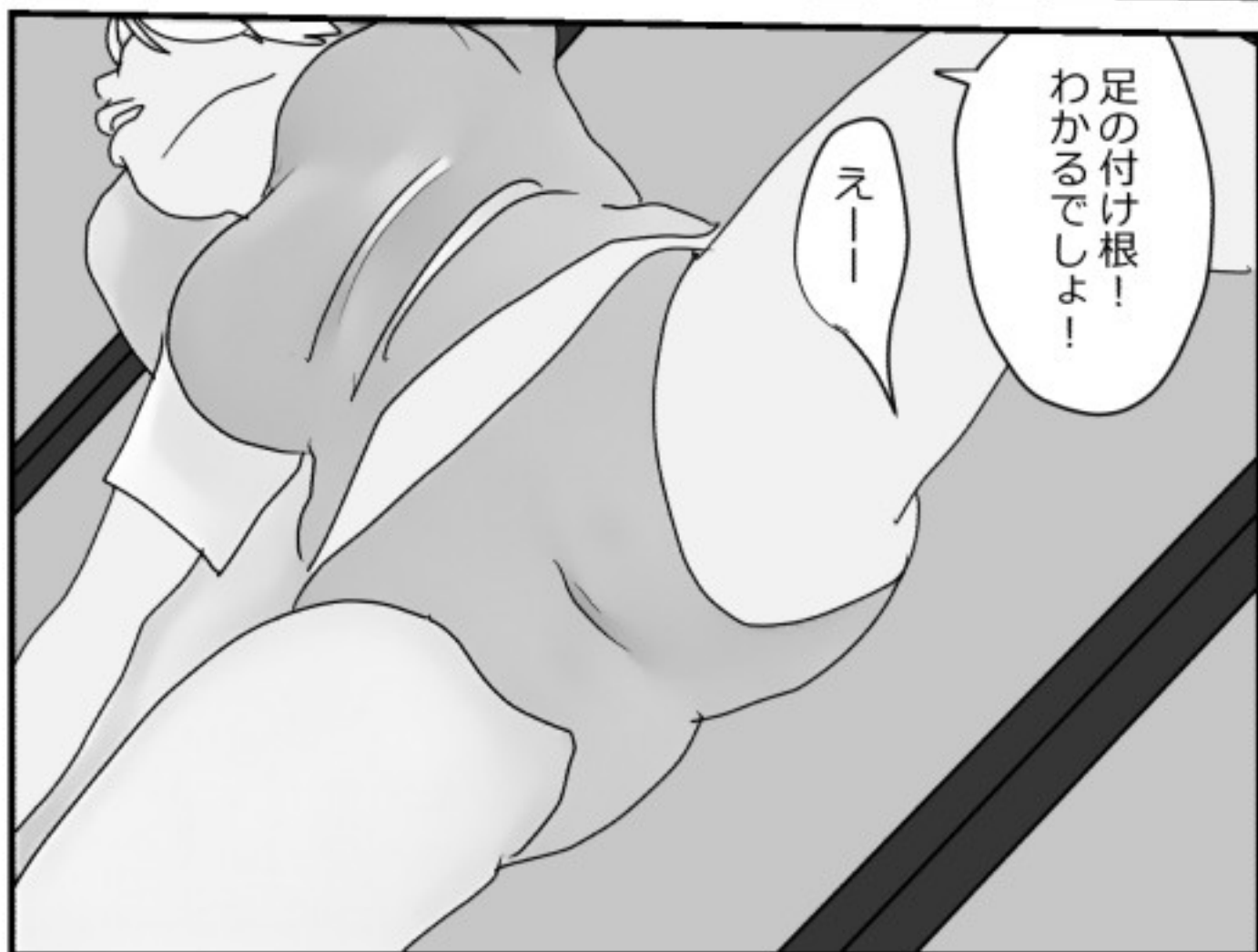



え？背中もやれって？

たまの帰省なんだから
親孝行しなさいよ



うふう…そう…
そこそこ…
もっと体重のせて…

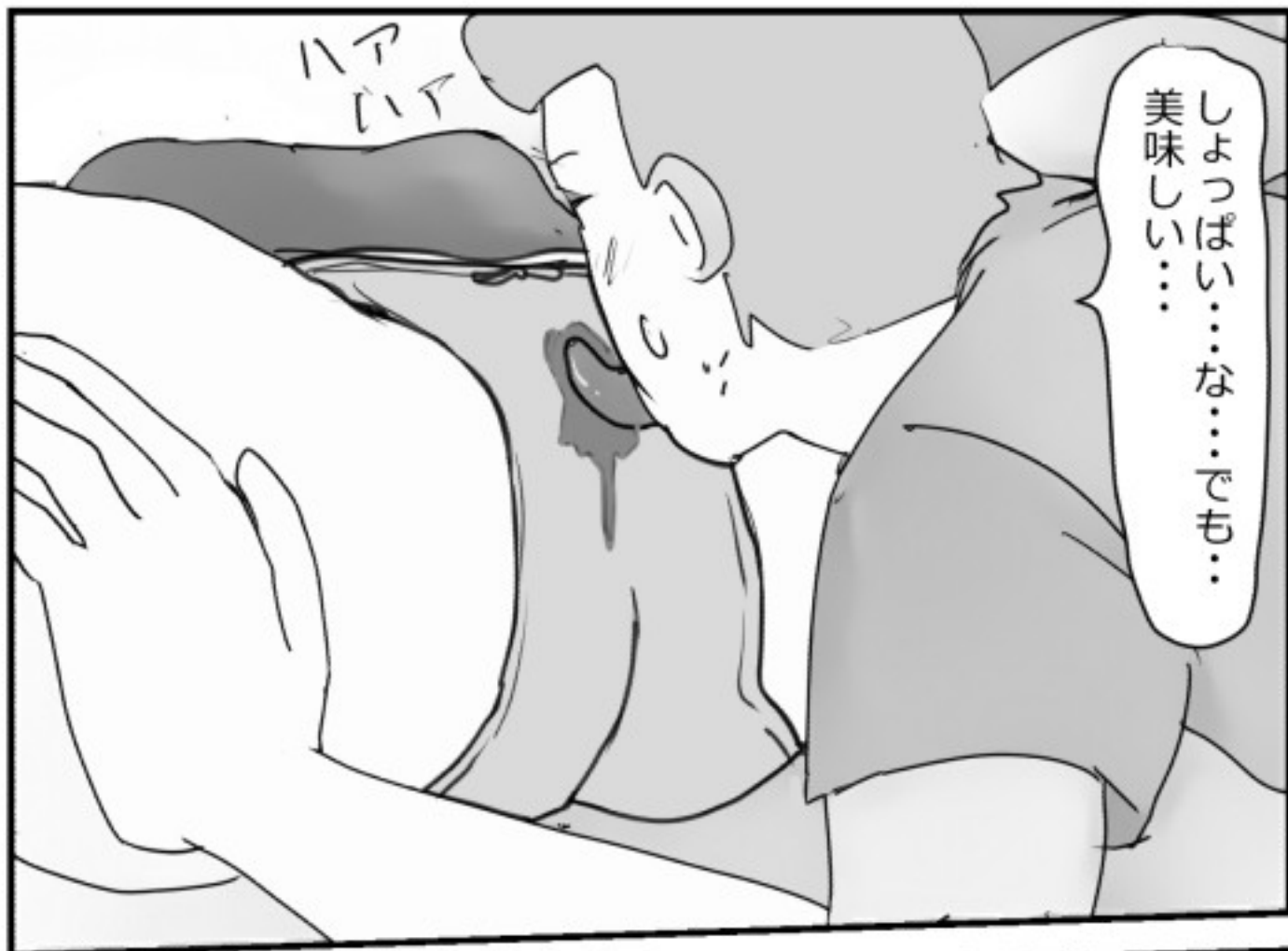




そうそう……その部分が気持ちいいのよ
他人様には頼めないから貴重だわあ

ってか……あそこ……濡れてないか？





しょっぱい……な……でも……
美味しい……

ハア
ハア

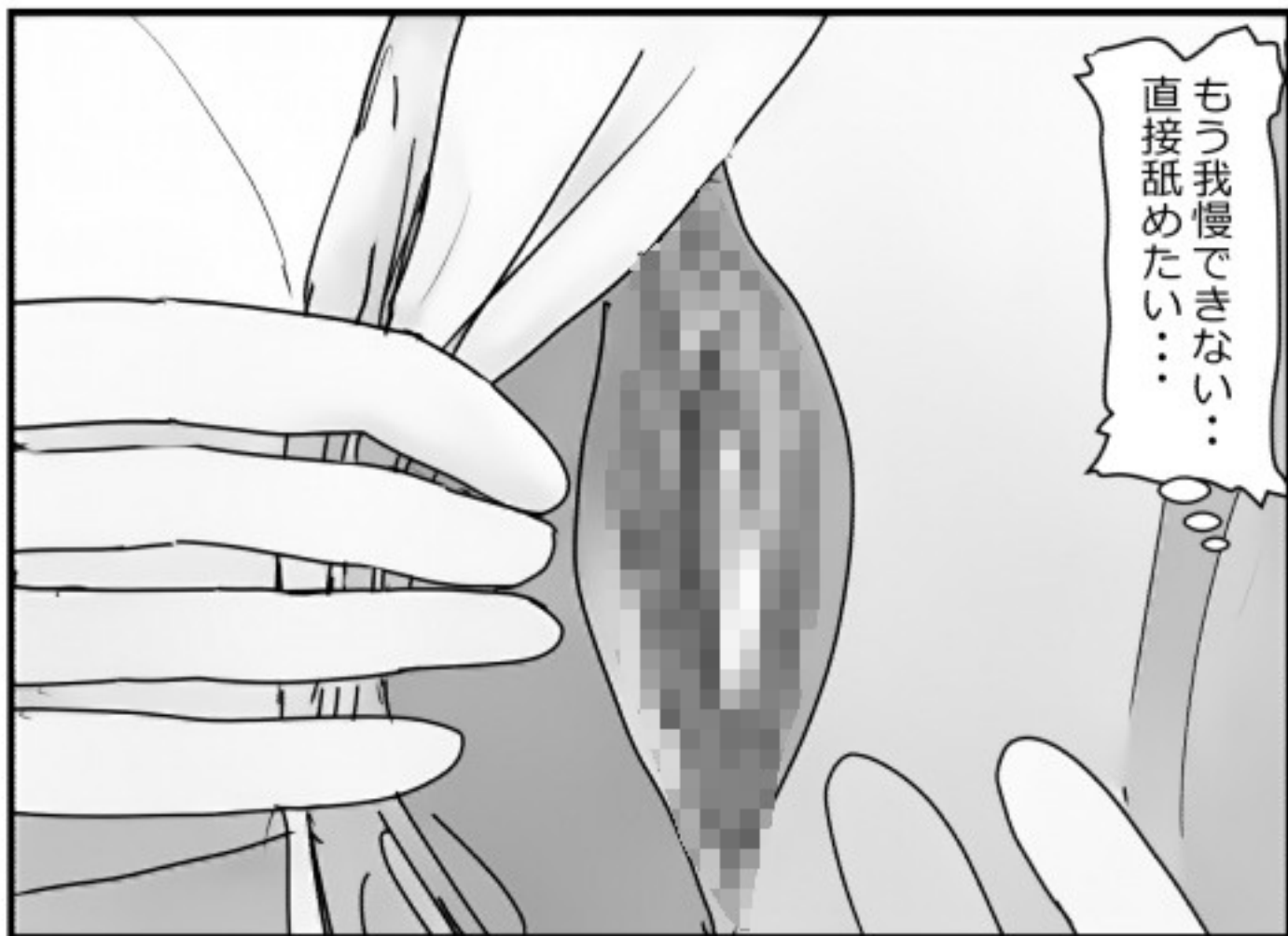


はあはあ……
これが……母さんの……
おまんこの味……すげえ……

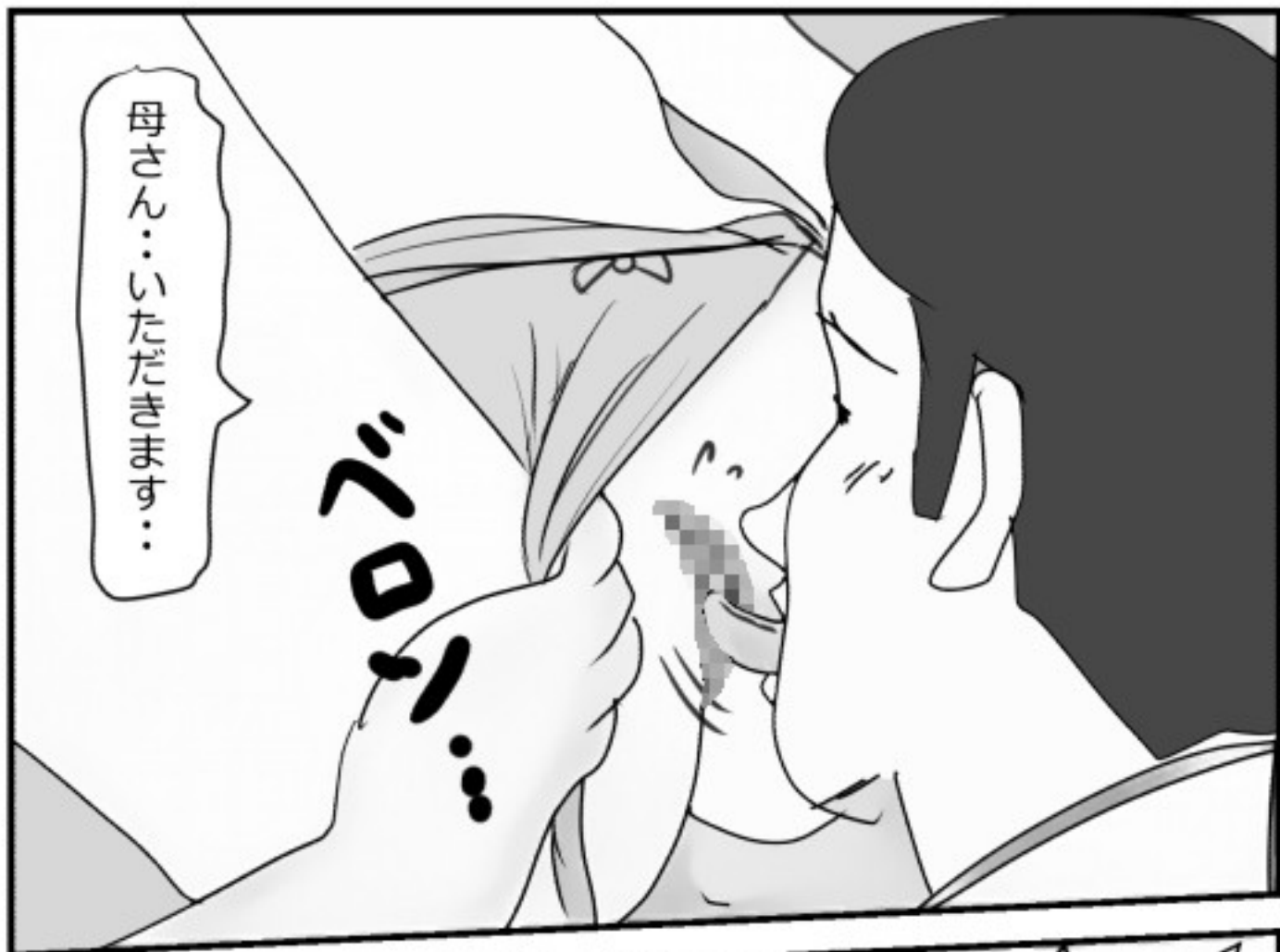
これが本当の
おふくろの味だな




あ……あはあ……ん……



もう我慢できない……
直接舐めたい……





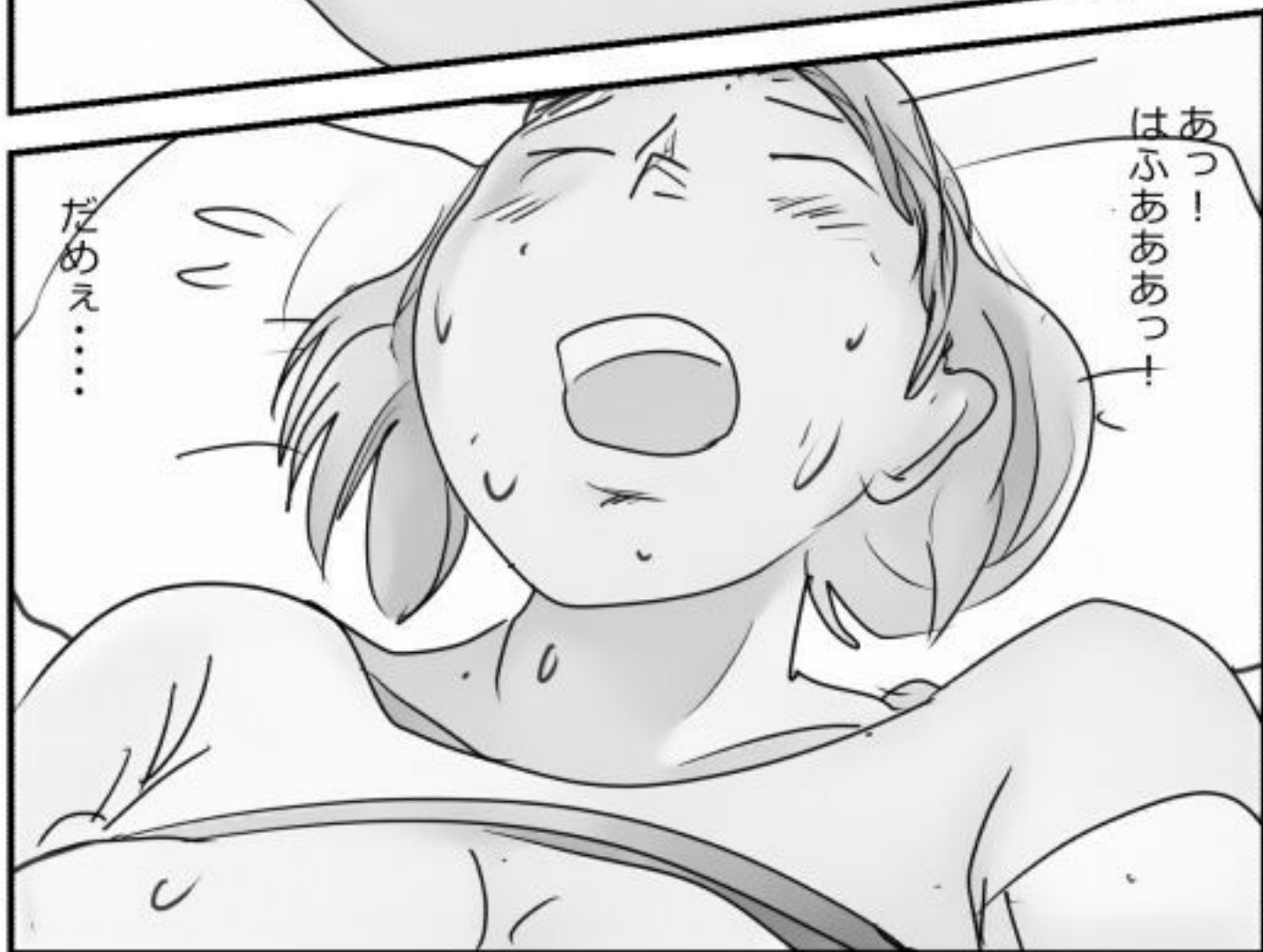
え？ちよっと？
なにしてるん？

はあはあ……母さんも感じてるんだろ……
ぐちよぐちよに濡れてるよー！




母さん……おっぱいも舐めたい……

だめよ……親子なの……だめ……なのよお

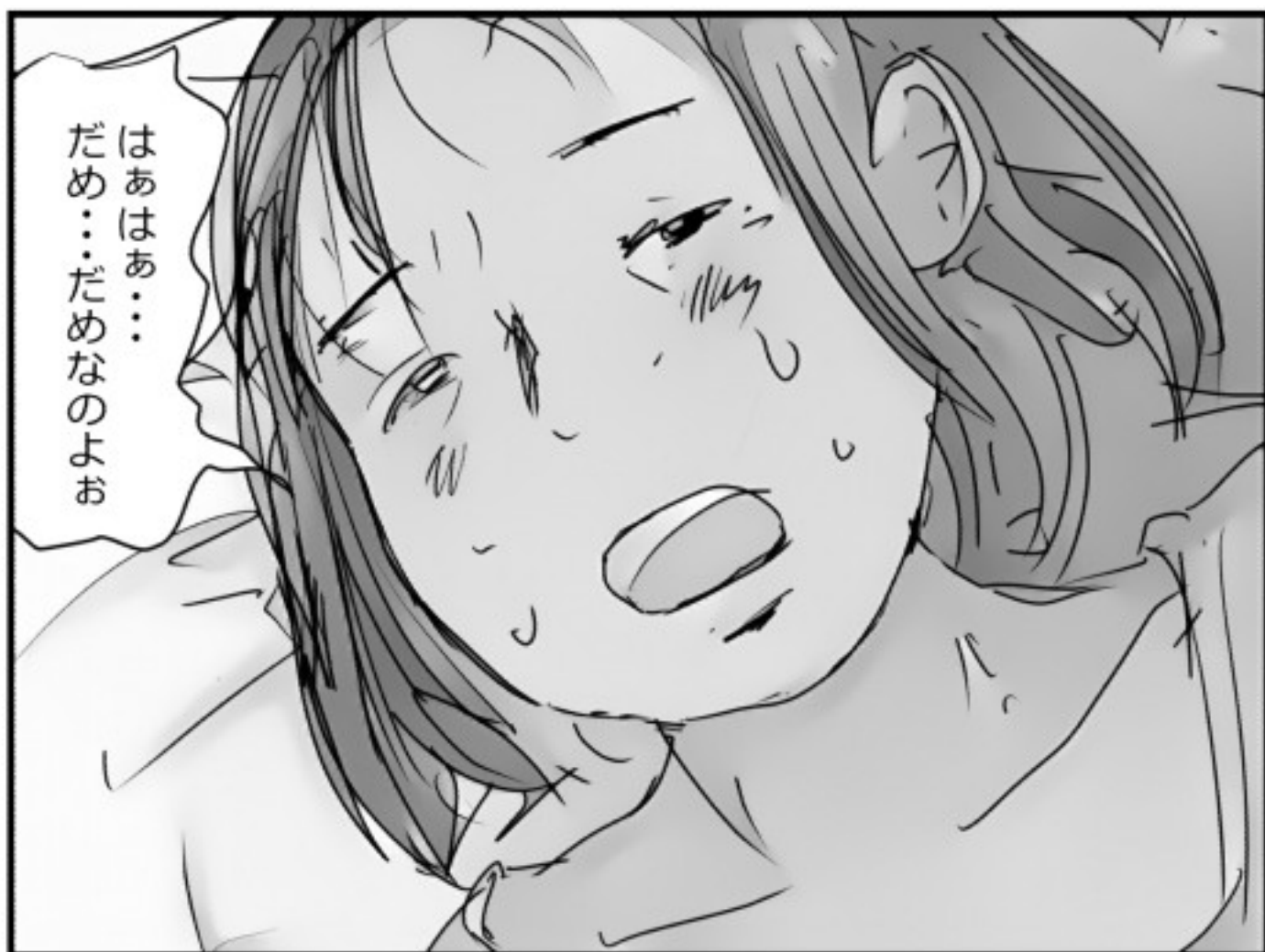


あっ！
はふあああっ！

だめえ……

A woman with dark hair, wearing a purple short-sleeved top, is lying on her back on a light green floor. Her eyes are closed, and her hands are clasped behind her head. A man with dark hair, wearing a grey long-sleeved shirt, is leaning over her, his head resting against her chest. The background consists of light green walls with dark green trim.

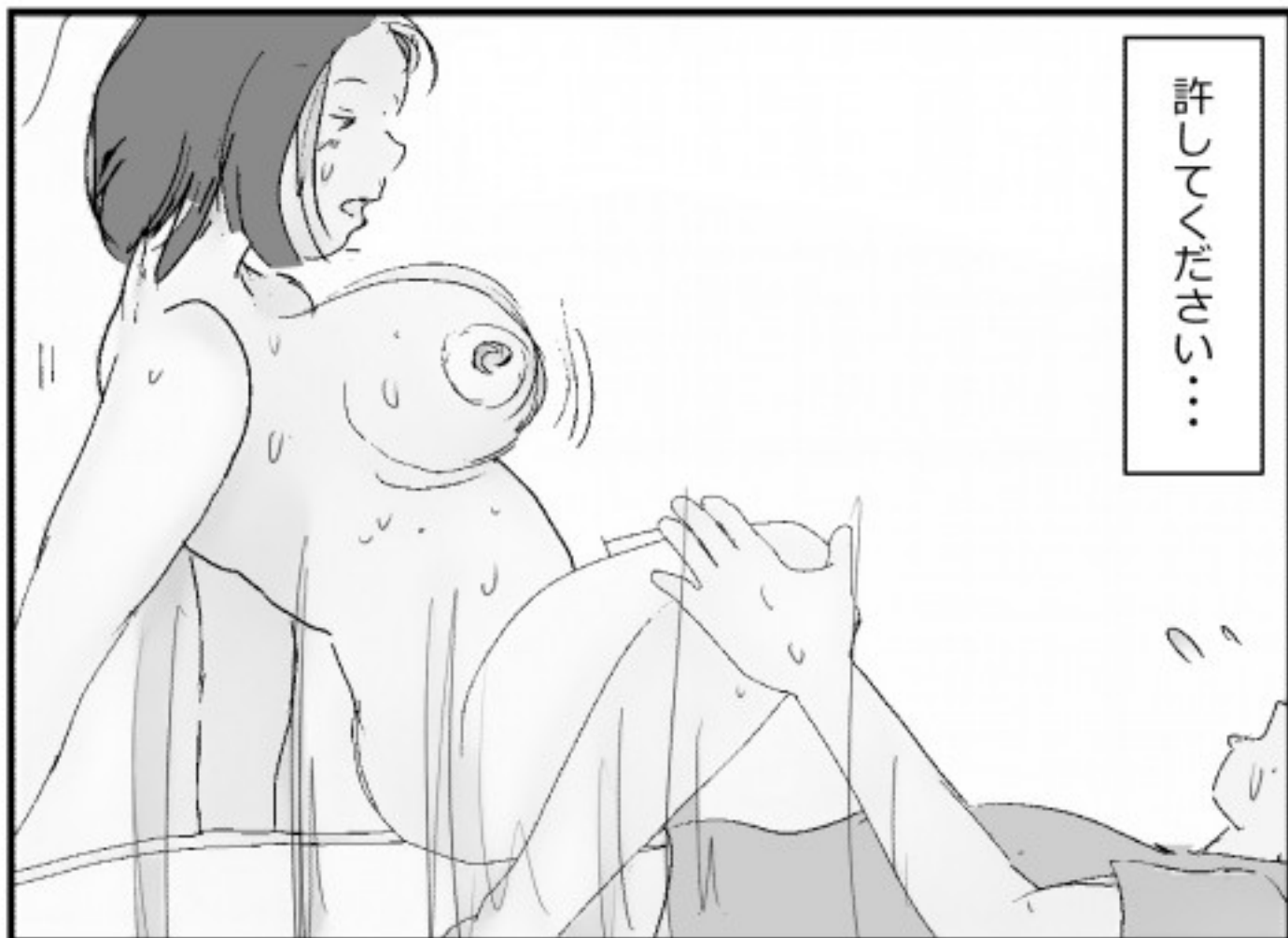
あああああ……この子何てことを……
あなた……ごめんなさい……



あなた：
こんな妻を……



許してください……



あ……あ……

この子こんなと……どこで覚えたのかしら……

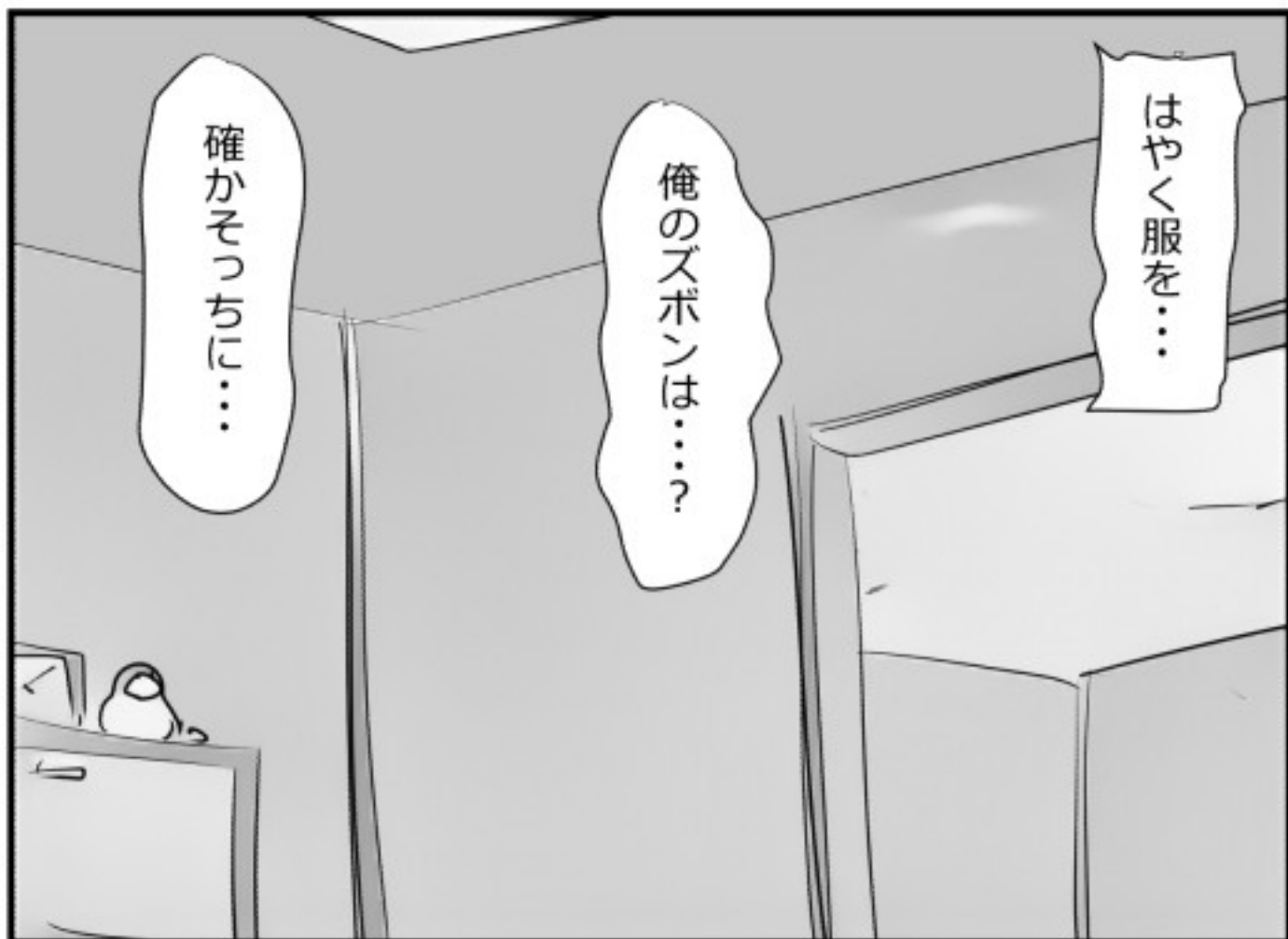


母ちゃん……！

あああ……きてえ……

ただいまあつ





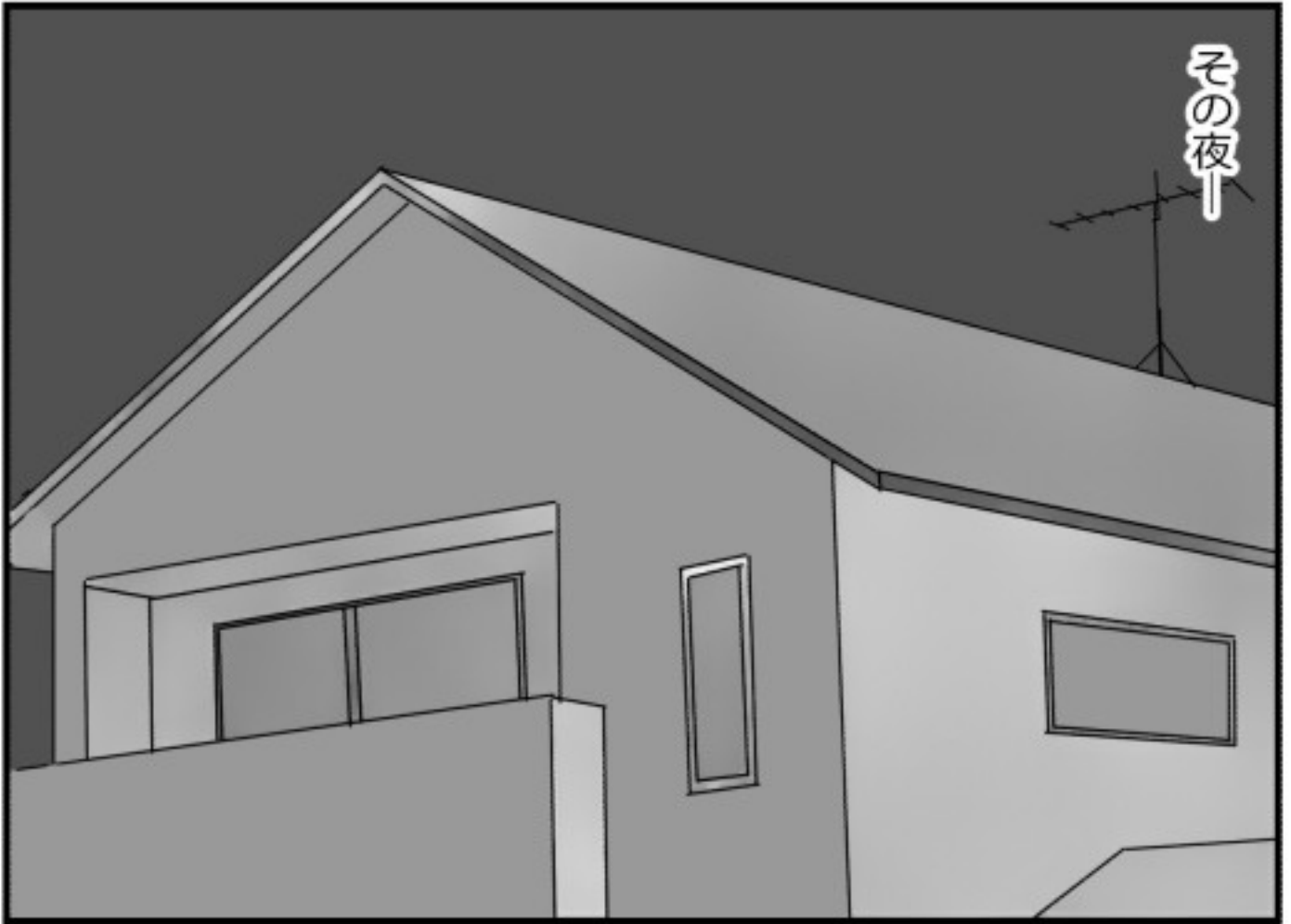


おう・・・ひさし、帰ってたのか。

うん：
父さんもおかえり。

どうしよう・・・
あそこのジーンズが止まらない・・・

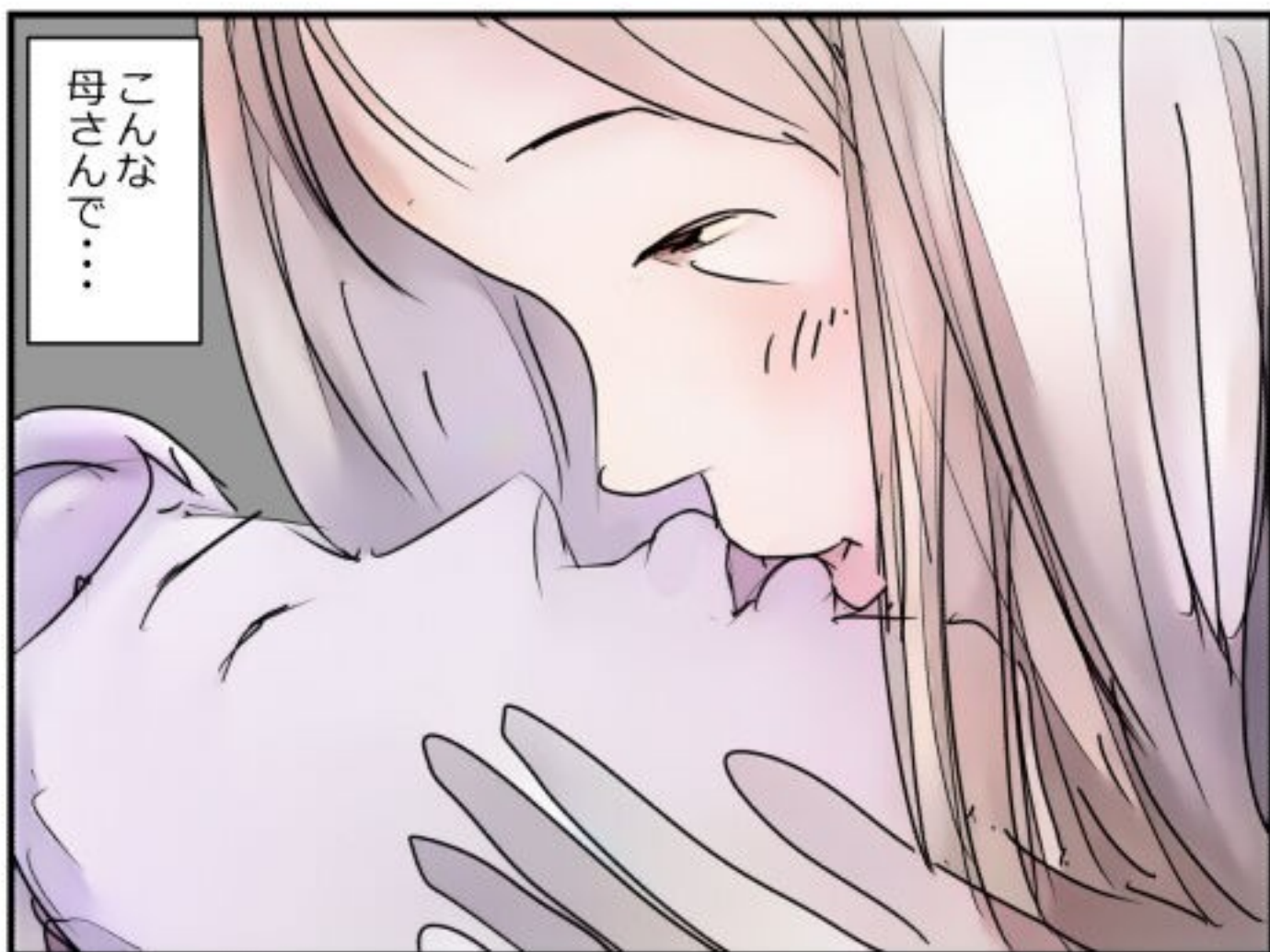
その夜





ひたし...めんね...

うーん



こんな
母さんで...



か・・・母さん!?

ひさしい：
母さんなんか
おかしくなっちゃったみたい：

うん...

あああ...母ちゃん...



あ……す……
母さんの口の中……
気持ちいい……っ

ちゅぽ……

じゅる……



母さん……
そんなに吸われたら
俺おかしくなるよ……

あああ……っ！
でるっ！でるっ！

ちゅうっ……





母さん…
俺たちセックスしてるよ！

ああっ…息子にこんなことされるなんて…
ああああっ！でも気持ちいいわあ…

出すよっ！母さんっ！
中に出すよっ！…！！

きてえ…ひさしい…
中に…
中に出してえっ！

あっ！
ああああああっ！！！！



そして俺が帰る日。
母さんは駅まで見送りに来てくれたのだが
名残惜しさに、駅のトイレでまた二人は繋がった。

その後も、
母さんは東京の僕のアパートにたまに来ては
そこでもセックスをするようになった。

母さんとのからだの相性が良すぎて
もう、恋人はいらないと
最近思っている。



終